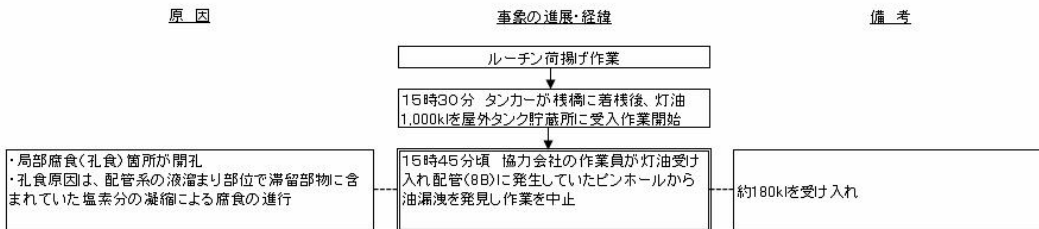




屋外タンク貯蔵所受入配管灯油漏洩事故

事象進展図

00312	屋外タンク貯蔵所受入配管灯油漏洩事故
発災年月日	2006年7月31日
装置	屋外タンク
運転状況	ルーチン作業中
特徴	棧橋の荷揚げ用配管滞留部の内面腐食による油漏洩事例



再発防止策

- ・腐食開孔した箇所を含め検査の結果、内面腐食が発生している箇所の配管(全長約60m)を更新した。
- ・長期間、滞留物があったことが要因であると考えられるので、棧橋の使用計画を見直し、少なくとも数ヶ月に1回以上は通油されるよう計画する。
- ・今回更新した配管については使用開始後1～2年後に検査を行い、以後の検査方針に反映させる。

安全専門家コメント

所謂、盲腸配管、行き止まり配管においては、その液が長期間滞留することから、液中に今回のような腐食性物質があった場合や水分や堆積物が存在した場合、容易に内面腐食が発生することはいろんな事例から知られている。今回、定期的に通油するなどの対策がとられているが、最も良いのはそれらの配管の必要性を先ず、検討し、不要と判断したらそれらを撤去することである。どうしても撤去できないものについては、上記のような対策が必要である。定期的に通油と簡単に言われるがそれを徹底することは至難の技である。運転員に過度な負担をかけないように管理者は心すべきである。タンクヤードの配管についても、製油装置の配管と同様な検査計画を立て総合的に管理すべきである。揚げ荷配管は、棧橋を必ず経由するので漏洩した場合、直ちに海洋汚染につながることになる。

引き金事象発生の原因	事故の引き金事象	事故に関連した直接・間接要因
<ul style="list-style-type: none"> ・行き止まり配管を長期間使用せず、滞留物が存在 ・液溜まり部での塩素分の凝縮 	荷揚げ配管の内面腐食による開孔	<ul style="list-style-type: none"> 《情報要因》 プロセス特性・危険性の評価・検討不足 《物質要因》 危険物質・不純物の生成・蓄積 《保守・点検要因》 点検・検査不良



屋外タンク貯蔵所受入配管灯油漏洩事故

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

自治体消防事故データ

▶ **添付資料**

▶ **キーワード(>同義語)**

- 🔑 行き止まり配管
- 🔑 長期滞留
- 🔑 貯蔵入出荷設備 > オフサイト設備
- 🔑 配管 > パイプ
- 🔑 海上入出荷系
- 🔑 盲腸配管
- 🔑 内面腐食
- 🔑 腐食性物質

▶ **関連情報**